1/8 毎朝

維新 旗印は反野党

立民・共産を激しく「口撃」

衆院選で議席数を四倍近く増やした日本維新の会は、来夏の参院選へ一層の党勢拡大を図る。「改革実現」を掲げ、違憲気味だった与党への批判を解禁。同時に、リベラル系野党への激しい「口撃」を繰り返し、全国への浸透を狙う。拠点の関西圏以外に強固な支持組織を持たない維新の大幅議席増を、英紙ガーディアンは「右翼ポピュリスト」の躍進と表現。快進撃はどこまで続くのか。

▽ご苦下ろし

「野党共闘は野合、談合、選挙互助会。くみしなくて良かった」。維新代表の松井一郎大阪市長は二日の記者会見で、野党統一候補を立てて衆院選に臨んだものの議席を減らした立憲民主党と共産党を「ご苦下ろし」した。「勝因」を巡っては「共産アレルギー」を掲げ相当数の有権者が、政権批判の受け皿に野党共闘でなく維新を選んだためだとの見方が広がる。松井氏は「共産と組んだら駄目よ」と付け加えた。

維新は、岸田政権よりも行財政改革や憲法改正に意欲的だとの立場をアピールする。太いパイプで結ばれていた安倍、菅政権当時は、批判を抑えていた。軌道修正した形だ。

対野党では、自民に勝る熱量で「立憲共産党の嘘さん」（松井氏）などと挑発し、対決姿勢を演出。維新副代表の吉村洋文大阪府知事を「選挙の顔」に据えて非自民、反立共を掲げる戦術は奏功し、議席数が公示前の十一から四十一に跳ね上がった。

▽続投に期待

党勢拡大への手応えは感じているようだ。衆院選投開票直後に実施した共同通信の世論調査によると、衆院第三党となった維新の政党支持率は14・4％に達し、自民に次ぐ第二党の立民（11・2％）を上回った。松井氏は「大阪都構想」が住民投票で否決されたことを受け、次期代表選に出馬しない意向を表明したが、党内では続投に期待する声が広がる。

海外メディアも関心を寄せる。英紙ガーディアンは「右翼ポピュリストたちが大阪で圧勝」との見出しで報道。米ブルームバーグ通信は「右翼政党の躍進に驚き」、ロイター通信は「ダークホースの右翼政党が衆院で第三党に」と伝えた。

▽危うい言動

こうした見方を補強するように、維新は危うい言動を見せる。政策集には、国政選挙立候補者の国籍履歴に関する公表義務化を明記。馬場伸幸幹事長は十月三十一日のTBSラジオ番組で「安全保障上、重要な政策決定をするので、公人が経歴を明らかにするのは当たり前だ」と述べた。排他主義や民族差別を助長しかねない懸念が付きまとう。

続けて馬場氏は、国籍取得手続きを取った日本人とそれ以外の日本人は違うカテゴリーに属すると思うか、と問われ「そうですね」と答えた。ツイッター上では、近隣諸国や特定民族への嫌悪感をにじませながら「大賛成です」などと同調する投稿が散見される。

岸田政権と距離を置きつつ、リベラル系野党との対立をてこに伸びる維新。独自の地歩を固めつつあるのは間違いない。

排他主義の懸念

海外メディア「右翼ポピュリスト」

松井一郎代表　吉村洋文副代表

日本維新の会
衆院選対応と結果

主な主張	日本大改革。第三極の形成
対与党	「自民党をぴりっとさせる」
対野党	「野党共闘は野合、談合」「立憲共産党」
獲得議席	41議席。このうち小選挙区16、比例代表25
衆院勢力	自民、立民に続く第3党に

国民、改憲へ維新と連携

あすにも幹事長会談

国民民主党の玉木雄一郎代表は七日のフジテレビ番組で、日本維新の会と国会運営での連携を強化するため、九日にも両党の幹事長、国対委員長会談を開催すると明らかにした。玉木氏と同じ番組に出演した維新の吉村洋文副代表（大阪府知事）は、憲法審査会などで憲法改正論議の促進を目指す考えで一致した。

吉村氏は「国民民主の皆さんとは非常に価値観が近いところがある。個々の政策や、法案などを実現するために協力していくのが非常に重要だ」と強調した。改憲を巡り、玉木氏は「衆参両院の憲法審査会は毎週開いたらいい。議論するために（国会議員の給料に当たる）歳費をもらっている。開かない選択肢はない」と語った。

吉村氏は国民党について「『改憲は慎重』と言いながら一部の保守層のガス抜きでやっている。本気で改憲するなら、われわれも本気で付き合う」と指摘。玉木氏は「改革中道で自民党に対抗できる、まともな野党勢力をつくりたい」と述べた。